

令和 6 年 度

主要施策の成果に関する説明書

令和 7 年度滋賀県議会定例会
令和 7 年 9 月定例会議提出

[文化スポーツ部門]

滋 賀 県 の 施 策 の 分 野

- I 人 自分らしい未来を描ける生き方
- II 経 済 未来を拓く 新たな価値を生み出す産業
- III 社 会 未来を支える 多様な社会基盤
- IV 環 境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

目 次

	頁
I 人	5
II 経 済	該当なし
III 社 会	該当なし
IV 環 境	該当なし

Ⅰ 人

自分らしい未来を描ける生き方

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>1 子どもの文化芸術体験の充実</p> <p>予 算 額 55,009,000 円</p> <p>決 算 額 55,006,682 円</p>	<p>1 滋賀次世代文化芸術センターの運営費補助 9,800,000円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>ア 文化芸術連携事業 文化施設、芸術家と学校を結び、子どもたちが文化芸術を体験する授業を実施。 実施件数 68件 学校数 24校 児童・生徒数 4,097人</p> <p>イ ボランティア、スタッフの育成・研修 大学と連携したボランティア派遣や芸術と教育との連携を深めるための研修会を実施。 文化ボランティア数 26人 スタッフ・教育関係者研修会 日程：令和6年7月29日 場所：MIHO MUSEUM 参加者数：61人</p> <p>(2) 施策成果 滋賀次世代文化芸術センターが行う連携授業により、多くの子どもたちが文化芸術に触れ、創造する機会を提供することができた。美術館による質の高い教材支援、講師、スタッフ、ボランティアの分かりやすい説明や細やかな対応により、子どもたちに文化芸術の楽しさや感動を伝えることができた。</p> <p>(3) 今後の課題 文化芸術を体験する連携授業に参加する学校は県南部に多いことから、それ以外の地域から参加する学校を増やす必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 令和4年度に開設したホームページや教員・学校関係者に向けた研修等を通じて、センターの活動内容について検証し、発信するとともに、県南部以外の地域にも事業の周知や参加の呼びかけを行う。</p> <p>イ 次年度以降の対応 県内美術館・博物館・劇場・音楽堂等・民間団体等とのネットワークを強化し、多くの子どもたちが文化芸術に触れ、創造する機会を提供するとともに、県内全域に事業の周知を図る。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 びわ湖ホール舞台芸術体験事業(「ホールの子」事業) 43,168,682円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、びわ湖ホールに県内小学生等を招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を平成23年度から実施している。</p> <p>令和6年度は6日間で12公演を実施し、うち6公演を(公財)びわ湖芸術文化財団へ委託して実施した(残り6公演は指定管理事業)。また、県内各地からの参加を促すため、交通費の補助を行った。</p> <p>日 程：令和6年5月29日～31日、6月4日～6日 各10:30～、14:00～(全12回公演)</p> <p>場 所：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 大ホール</p> <p>参加数：県内小学校等182校 児童・生徒数 12,263人</p> <p>補助数：県内小学校等168校</p> <p>補助率：実績額の全額を補助。</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>今年度も「みんなで歌おう」を実施し、県内の小学生等に舞台芸術を直接体験できる機会を創出することができた。また、交通費の補助を行うことで、遠方の学校の負担を軽減した。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>事業に参加した学校からは、直接舞台芸術に触れる貴重な経験として高い評価を得ており、参加校を増やす方策について引き続き検討していく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>より多くの子どもたちが参加できるよう検討を続けており、今年度は外国人学校として初めてサンタナ学園に参加いただいた。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>引き続きこれまで参加できていない子どもたちに参加していただく方策について検討する。</p> <p>なお令和8年度までは通常どおりの開催を予定しているが、びわ湖ホールの改修に伴い、令和9年度は「ホールの子」事業が開催できなくなる。前後の年度において参加を希望する学校等が漏れなく参加できるよう、意向調査と参加校の調整を行う。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>3 美ココロ・パートナーシップ事業 2,038,000円</p> <p>(1) 事業実績 多様な環境下にある子どもたち（別室登校・不登校児童生徒等）を対象に、若手芸術家を本事業の講師である「美ココロ・パートナー」として派遣し、様々な芸術に触れ、豊かな心を育む文化芸術体験プログラムを提供した。 学校数 16校 児童・生徒数 延べ353人 派遣した美ココロ・パートナー 陶芸家7人、打楽器奏者4人</p> <p>(2) 施策成果 多様な環境下にある子どもたちが、文化芸術に触れることで、自己を育て感動や安らぎを感じることができる機会を提供することができた。不登校の児童・生徒が増えている状況や学校側の要望に応じて授業内容を工夫したことにより、学校の信頼を得て、充実したプログラムを実施することができた。</p> <p>(3) 今後の課題 様々な事情により、学校が実施するプログラムに参加しにくい状況にある子どもたちを対象としている事業であり、事業実施までの調整等に手間がかかることから、より多くの学校で事業を実施することができるよう、「美ココロ・パートナー」として取り組む若手芸術家を、派遣を通して育成する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 民間団体等と連携し、若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として派遣することを通して育成する。 イ 次年度以降の対応 引き続き研修等の充実を図り、「美ココロ・パートナー」として取り組む若手芸術家を、派遣することを通して育成する。</p> <p style="text-align: right;">（文化芸術振興課）</p>

事 項 名	成 果 の 説 明														
<p>2 文化振興施策の総合的な推進</p> <p>予 算 額 36,849,000 円</p> <p>決 算 額 36,847,125 円</p>	<p>1 文化情報誌等の発行・配布 5,971,000円</p> <p>(1) 事業実績</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">「湖国文化情報『れいかる』」の発行</td> <td style="text-align: right;">年間 5 回</td> <td style="text-align: right;">30,000部/回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">総合文化誌「湖国と文化」の図書館、教育機関等への配布</td> <td style="text-align: right;">年間 4 回</td> <td style="text-align: right;">420冊/回</td> </tr> </table> <p>(2) 施策成果</p> <p> 県域の文化芸術情報を網羅した総合的な情報誌「湖国文化情報『れいかる』」を発行し、県内の文化施設や市町、商業施設等へ配布することにより、文化情報を効果的に発信できた。</p> <p> また、滋賀の歴史や自然、芸術などについて幅広く掲載した総合文化誌「湖国と文化」を県内外の図書館や教育機関等に配布し、滋賀の魅力を広く発信することにより、滋賀の文化への興味・関心を高めた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p> 県の文化情報をより効果的に周知する方策について検討する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p> ア 令和7年度における対応</p> <p> 新たな配布先の確保に努め、様々な文化情報を網羅し、迅速に発信するなど充実した誌面づくりを行う。</p> <p> イ 次年度以降の対応</p> <p> 引き続き、新規読者の獲得につながるよう配布先の検討を行い、より充実した誌面づくりを行う。</p> <p>令和7年度（2025年度）の目標とする指標</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">文化芸術に取り組む環境が整っていると感じる人の割合</td> <td style="text-align: right;">令6</td> <td style="text-align: right;">目標値</td> <td style="text-align: right;">達成率</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">37.9%</td> <td style="text-align: right;">50.0%</td> <td style="text-align: right;">75.8%</td> </tr> </table>	「湖国文化情報『れいかる』」の発行	年間 5 回	30,000部/回	総合文化誌「湖国と文化」の図書館、教育機関等への配布	年間 4 回	420冊/回	文化芸術に取り組む環境が整っていると感じる人の割合	令6	目標値	達成率		37.9%	50.0%	75.8%
「湖国文化情報『れいかる』」の発行	年間 5 回	30,000部/回													
総合文化誌「湖国と文化」の図書館、教育機関等への配布	年間 4 回	420冊/回													
文化芸術に取り組む環境が整っていると感じる人の割合	令6	目標値	達成率												
	37.9%	50.0%	75.8%												

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 近江文化発見・発信事業 2,499,990円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>子ども・若者が文芸活動を通じて、滋賀の歴史、風土、文化および自然等の魅力を発見し、発信することを目的に、滋賀の名所を散策し、俳句を作るワークショップを開催するとともに、高校生俳句コンクールを開催した。</p> <p>ア 俳句ワークショップ</p> <p>実施概要：令和6年9月29日（日）：大津編（散策場所：近江神宮境内） 参加者数：18人 令和6年10月6日（日）：近江八幡編（散策場所：白雲館） 参加者数：21人 令和6年10月27日（日）：長浜編（散策場所：慶雲館） 参加者数：23人</p> <p>イ 滋賀県高校生俳句コンクール 応募者数：926人 表彰式：令和6年12月14日（土）義仲寺無名庵にて開催</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>県内外の参加者に滋賀ゆかりの文学作品を通して滋賀の魅力を感じてもらうことができた。また、高校生俳句コンクールは926人からの応募があり、若い世代に俳句を通して、言葉による表現の楽しさに触れる機会を提供できた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>滋賀ならではの豊かで魅力ある文化を再発見し、また県外に対しても発信する取組を引き続き展開する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>小学生以上の子ども等を対象に、百人一首に関係する地域など、県内の文化財等を訪問し、滋賀の魅力をテーマとした短歌を詠むワークショップを開催するとともに、滋賀の魅力を詠んだ短歌を募集し令和版近江百人一首を制作する。また制作した令和版近江百人一首を用いてかるた大会を開催するとともに、令和版近江百人一首を発信することで、県への愛着や魅力を再発見する機会を創出する。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>文学作品等を通じた滋賀の魅力について、県内外に対して発信する取組を引き続き展開する。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明										
	<p>3 滋賀県芸術文化祭の開催 28,376,135円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>主催事業</p> <p>公募展（美術展覧会、写真展覧会、文学祭）の開催 応募点数：1,679点</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>公募展の応募点数</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> <td>令6</td> </tr> <tr> <td>（単位：点）</td> <td>1,766</td> <td>1,789</td> <td>1,709</td> <td>1,679</td> </tr> </table> <p>参加事業</p> <p>開催期間中（令和6年8月～令和7年1月）に文化団体等が行う事業を参加事業として承認し、支援した。</p> <p>参加事業数：199 事業</p> <p>参加者数：延べ 384,737人</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>県民の日頃の芸術文化に関する創作活動の成果を発表する場を提供するとともに、優れた芸術文化に親しみ、鑑賞する場を提供することができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>出品者の高齢化が進んでおり、若年層をはじめ幅広い年齢層の参加を促す必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>若年層をはじめ幅広い年齢層の県民が参加できるよう、募集、実施方法、広報等を工夫していく。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>引き続き、若年層を含め、幅広い年齢層の参加を促す。</p> <p style="text-align: right;">（文化芸術振興課）</p>	公募展の応募点数	令3	令4	令5	令6	（単位：点）	1,766	1,789	1,709	1,679
公募展の応募点数	令3	令4	令5	令6							
（単位：点）	1,766	1,789	1,709	1,679							

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>3 美の魅力発信の推進</p> <p>予 算 額 18,846,000 円</p> <p>決 算 額 17,336,600 円</p>	<p>1 美の資源活用推進事業 5,565,221円</p> <p>(1) 事業実績 地域にある美の資源を活用した取組を支援するとともに、団体同士の連携を図るための会議を開催した。また、美術館やびわこ文化公園一帯において、展示やワークショップを行い、各団体と美術館との連携強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採択団体（6団体） ・連携推進会議 令和6年9月19日 ・オンライン成果発表会 令和7年2月27日 ・アートや暮らしの中にある美の資源を活用した展示やワークショップ等の開催（56回開催） ・「『滋賀をみんなの美術館に』プロジェクトサイト」での情報発信 <p>(2) 施策成果 県内の6団体が事業を展開し、琵琶湖や各地域の産業・風景等、地域の資源を結び付けて発信するとともに、美術館内での展示やワークショップを実施し、美術館との連携をより深めることができた。</p> <p>(3) 今後の課題 多様な美やアートを通じた人と地域、社会のつながりや、新たな創作活動への刺激を生み出すとともに、取組を支える仕組みの維持・強化を支援し、さらなる地域活性化につなげていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 さらなる相互連携や各団体と美術館との連携を深めるとともに、地域に根差した文化やアートを活用した取組をつなげ、分野や地域を超えた交流を創出するため、多くの方々の共感・参画を得ながら現場での活動に寄り添った支援の取組を進める。</p> <p>イ 次年度以降の対応 各団体間の連携調整や各団体と美術館との連携、一体的な発信を通じて、コミュニティの活性化や美の資源を活用した取組のネットワークの構築を目指す。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業 5,407,339円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>県内各地で作品展示を行い、滋賀の福祉の現場から生まれた造形の魅力発信に努めた。また、障害のある人による美術表現を軸に、多様な表現や鑑賞のあり方の可能性を考えていく連携ネットワーク組織の運営を行い、フォーラムの開催やメールマガジンの発行による情報提供等を行った。</p> <p>ア 宿泊施設等での作品展示 10 か所</p> <p>イ フォーラム（ライブ、講演の一部のアーカイブ配信）1回 開催日 令和6年6月23日 参加者 76名 配信視聴回数延べ 382回</p> <p>ウ メールマガジンの発行 令和6年度会員数772人 発行回数 22回</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>県内10箇所の宿泊旅館等のロビーや廊下、喫茶スペース、客室等に作品を展示することで、観光客等に対して、作品や作家、そして制作現場を紹介し、福祉の現場から生まれた造形の魅力を伝え、新たな造形との出会いを促進することができた。</p> <p>また、フォーラムの開催およびアーカイブ配信により、作り手の多様性だけでなく、鑑賞における多様性、障害のある人の文化的な営みを支えるためにはどうしたらいいのか、考える機会を作ることができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>作品自体の魅力を発信することに加えて、作品を生み出した制作現場にもスポットライトを当て、より幅広くその魅力を発信していく方策を検討する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>県内外の多くの方に、滋賀の福祉の歴史を背景に育まれた造形の魅力に出会っていただくとともに、滋賀ならではの文化資源をテーマとした観光や周遊のきっかけとなるよう、県内各地の宿泊施設等で作品の紹介を行う。</p> <p>「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」や「大阪・関西万博」により来県者の増加が見込まれる中で、関係機関とも連携して、より効果的な広報に努める。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>福祉の現場における先駆的な創造活動の歴史と蓄積がある滋賀ならではの造形作品を、観光客が数多く訪れる地域の施設に展示し、国内外に向けて、滋賀の美の魅力を発信していく。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>3 美の魅力一体的発信事業 6,364,040円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>県立美術館内の入場自由なエリアに、アール・ブリュットおよび信楽焼の2つのテーマに焦点を当て、いつでもその魅力に触れることのできる常設コーナーを設置した。また、地域の施設や学校・団体等と連携し、子どもをはじめ多くの県民が美の魅力に出会い、楽しむことができるワークショップや講座などを、美術館内やびわこ文化公園内で実施した。</p> <p>ア アール・ブリュットおよび信楽焼展示コーナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示 ・パネル展示による紹介 ・関連資料の配架等 <p>イ 「美の糸ローアートにどぼん！2024」</p> <p>びわこ文化公園内の施設ならびに県内の作家および団体等と連携してイベントを開催 合計61回</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>アール・ブリュット、そして滋賀の福祉の現場での創作活動とその関係性をわかりやすく紹介する展示を実施し、アール・ブリュット作品や信楽焼の作品をいつでも身近に鑑賞できる環境を作ることができた。</p> <p>「美の糸ローアートにどぼん！2024」では、多様な滋賀の美の魅力との出会いを通じて、多くの方がつながりアートの魅力と楽しみ方を五感で体験できる機会を提供することができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>県内の施設や団体等との連携のもと美の資源に関する情報発信を行うとともに、びわこ文化公園で交流や賑わいを創出するため、アートイベント等を行い、美術館や地域に根差した文化やアートを文化観光の推進につなげていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>美術館やびわこ文化公園でイベントやワークショップを開催し、出会い、学び、交流や賑わいを創出することにより、子どもも大人も来なくなるミュージアムに向けた取組を進める。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>滋賀の美の魅力発信の拠点である美術館をより魅力的なものにし、文化観光の拠点として活動を行っていくとともに、担い手の育成、懸け橋となる人材の確保など、将来にわたり取組を継続・強化できる仕組みを検討していく。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明																																		
<p>4 滋賀県立文化産業交流会館の管理運営 (指定管理)</p> <p>予 算 額 329,356,000 円</p> <p>決 算 額 328,453,000 円</p>	<p>1 滋賀県立文化産業交流会館の管理運営（指定管理）</p> <p>(1) 事業実績 主 催 事 業 芝居小屋「長栄座」公演をはじめ、古典芸能を次世代へ継承するワークショップ、学校アウトリーチ、室内楽コンサート等を開催。 24事業、45公演、入場者数 23,444人、有料公演入場率（イベントホール）72%</p> <p>(2) 施策成果 より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、県北部における芸術文化活動の拠点として、びわ湖ホールとの連携のもと幅広い世代を対象とした事業を展開した。 特に、邦楽・邦舞の公演では、芝居小屋「長栄座」を制作し、湖北地域の魅力を伝える新作落語と日本舞踊を上演するなど、より親しみやすい公演を県民に提供した。さらに、県民の方々に直接出演いただく公演を実施するなどの人材養成事業にも取り組んだ。</p> <table border="0" data-bbox="696 730 1570 943"> <tr> <td>主催事業入場者数</td> <td>令 3</td> <td>令 4</td> <td>令 5</td> <td>令 6</td> </tr> <tr> <td>(単位：人)</td> <td>21,701</td> <td>20,042</td> <td>29,669</td> <td>23,444</td> </tr> <tr> <td>貸館事業入場者数</td> <td>令 3</td> <td>令 4</td> <td>令 5</td> <td>令 6</td> </tr> <tr> <td>(単位：人)</td> <td>33,755</td> <td>40,229</td> <td>44,912</td> <td>49,363</td> </tr> <tr> <td>貸館件数</td> <td>令 3</td> <td>令 4</td> <td>令 5</td> <td>令 6</td> </tr> <tr> <td>(単位：件)</td> <td>727</td> <td>699</td> <td>657</td> <td>660</td> </tr> </table> <p>(3) 今後の課題 広報や公演内容等について、びわ湖ホールとの連携をさらに進めながら、特色のある事業を実施していく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 びわ湖ホール声楽アンサンブルによる公演を実施するなど、びわ湖ホールとの連携をさらに強化するとともに、「長栄座」をはじめ古典芸能分野で特徴的な事業展開を行い、県北部の芸術文化活動の拠点として賑わいを創出する。 イ 次年度以降の対応 より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、県北部における芸術文化活動の拠点として事業を展開する。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>					主催事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6	(単位：人)	21,701	20,042	29,669	23,444	貸館事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6	(単位：人)	33,755	40,229	44,912	49,363	貸館件数	令 3	令 4	令 5	令 6	(単位：件)	727	699	657	660
主催事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6																															
(単位：人)	21,701	20,042	29,669	23,444																															
貸館事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6																															
(単位：人)	33,755	40,229	44,912	49,363																															
貸館件数	令 3	令 4	令 5	令 6																															
(単位：件)	727	699	657	660																															

事 項 名	成 果 の 説 明																														
5 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール ^の 管理運営（指定管理） 予 算 額 959,534,000 円 決 算 額 953,552,000 円	1 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール ^の 管理運営（指定管理） (1) 事業実績 主催事業 オペラ、オーケストラ、室内楽・声楽、演劇、古典芸能等の公演を開催。 53事業、173公演、入場者数 62,237人、有料公演入場率 74% 専属声楽アンサンブル運営 オペラへの招待、プロデュースオペラ、定期公演、「ホールの子」事業、ふれあい音楽教室等に出演。 広報営業 広報活動 公演チケット情報「Stage」（毎月発行、各15,000部）、舞台芸術情報誌「湖響」（年4回、各10,500部）の発行、ホームページの運用、公演プログラムの発行、新聞寄稿、雑誌、テレビ、ラジオ等 営業活動 チケットの企業・団体向け組織販売、青少年料金（24歳以下）の設定、民間助成金等の確保、友の会運営（一般会員 2,183人 サポート会員 462口 特別会員 191口）等 観客創造 劇場サポーター 120人、シアターメイツ 1,248人、リハーサルの公開等 ホール施設および駐車場の管理運営 各ホール貸館利用件数 137件 入場者数 60,138人 駐車場利用台数 55,567台 (2) 施策成果 自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい繰り返し来場いただけることを目指して、多彩なジャンルの優れた公演を開催するなど、県民文化の向上に貢献する事業を展開した。 <table data-bbox="705 1018 1608 1230"> <tr> <td>主催事業入場者数</td> <td>令 3</td> <td>令 4</td> <td>令 5</td> <td>令 6</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>43,519</td> <td>57,394</td> <td>56,098</td> <td>62,237</td> </tr> <tr> <td>貸館事業入場者数</td> <td>令 3</td> <td>令 4</td> <td>令 5</td> <td>令 6</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>63,455</td> <td>65,912</td> <td>99,070</td> <td>60,138</td> </tr> <tr> <td>貸館件数</td> <td>令 3</td> <td>令 4</td> <td>令 5</td> <td>令 6</td> </tr> <tr> <td>（単位：件）</td> <td>169</td> <td>157</td> <td>167</td> <td>137</td> </tr> </table>	主催事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6	（単位：人）	43,519	57,394	56,098	62,237	貸館事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6	（単位：人）	63,455	65,912	99,070	60,138	貸館件数	令 3	令 4	令 5	令 6	（単位：件）	169	157	167	137
主催事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6																											
（単位：人）	43,519	57,394	56,098	62,237																											
貸館事業入場者数	令 3	令 4	令 5	令 6																											
（単位：人）	63,455	65,912	99,070	60,138																											
貸館件数	令 3	令 4	令 5	令 6																											
（単位：件）	169	157	167	137																											

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>6 美術館における事業の推進</p> <p>予 算 額 118,930,000 円</p> <p>決 算 額 112,974,636 円</p>	<p>(3) 今後の課題 引き続き、国際的水準の舞台芸術を県民に提供し、それを国内外に発信していく必要がある。また、改修に伴う長期の休館を控え、県内外文化ホールや文化産業交流会館との連携のほか、声楽アンサンブルの活動強化、海外公演・海外劇場との連携など、びわ湖ホールファンを増やす取組の検討が求められる。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 「びわ湖の春 音楽祭～挑戦～」において、びわ湖ホールを拠点に県全域が音楽で盛り上がるよう文化産業交流会館をはじめ、市町ホールで関連コンサートを開催した。 引き続き、幅広い多彩なジャンルで優れた公演を実施するとともに、広報活動ならびに協賛支援の確保等に努めていく。</p> <p>イ 次年度以降の対応 より多くの県民に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、積極的な広報活動による事業収入の拡大のほか、多様な財源確保に努め、積極的な事業展開に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p> <p>1 美術館展覧会開催事業 86,242,403円</p> <p>(1) 事業実績 開館40周年を記念して、令和5年度に寄贈を受けたアール・ブリュット作品の紹介、滋賀にゆかりの志村ふくみの生誕100周年を記念する展示、戦後の滋賀の家に着目した展示など、当館ならではの4本の企画展を開催したほか、コレクションを生かした常設展を開催した。 常設展示 9回 企画展示 4回 観覧者数 66,751人 (年度内延べ人数)</p> <p>(2) 施策成果 当館ならではの特色のある展覧会やイベントを実施し、県内外の多くの方に当館の所蔵品をはじめ多様な美術に出会える機会や美術の魅力を体験する機会を提供した。</p> <p>(3) 今後の課題 収蔵品の価値や滋賀の文化の魅力を県内外の多くの方に知っていただける展覧会や、子どもや障害を持った方々を含め多くの県民が美術の楽しさに触れることができる機会の拡大が必要である。また寄贈を受けた作品を中心とした新収蔵品を鑑賞することができる展覧会の開催が必要である。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 「落語であーっと展」、「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展」、「おさんぽ展」、「笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン」の4回の企画展を開催するとともに、県美メンバーズおよびサポーターの増加につながる取り組みを進める。</p> <p>イ 次年度以降の対応 魅力的な展覧会を企画・開催するとともに、積極的な情報発信を展開する。また、美術館の活動を継続・発展させることができるように県美メンバーズおよびサポーターの増加に引き続き努めていく。</p> <p>2 美術館美術品収集事業 12,365,815円</p> <p>(1) 事業実績 県民に魅力ある多様な美術作品の鑑賞の機会を提供するため、新たな美術品の収集や収蔵品の修復等を行った。 作品収集 140件（購入 13件、寄贈 127件） 作品修復 2件</p> <p>(2) 施策成果 作品の購入に加えて 127件の寄贈を受けたことは、当館のコレクションの幅を広げることとなった。</p> <p>(3) 今後の課題 県民共有の財産である優れた美術作品を後世に引き継ぐため、積極的な作品の収集や保全が必要である。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 県民に優れた美術作品の鑑賞の機会を提供するため、作品の調査・研究・交渉を実施、収集審査部会の審査を経て、魅力ある多様な美術作品を収集するとともに、収蔵品の修復を行う。</p> <p>イ 次年度以降の対応 予算に限られる中、サポーター制度等による寄附金の獲得に努めるとともに、県民に優れた美術作品の鑑賞機会を提供するため、引き続き作品の調査・研究・交渉・情報収集に努める。更には収蔵品を良好に保全管理するために必要な修復を行う。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>3 美術館魅力向上事業 14,366,418円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>美術館の魅力向上を目指して、大学連携による共同研究や施設案内パンフレットの制作、文化庁補助金を活用したナイトミュージアム事業の実施、美術館の未来の姿を考えるワークショップ「県美と一緒に〇〇したい！」の開催、ファンドレイジング推進に向けた検討および植栽改良などを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナイトミュージアム（「美術館で夏祭り」） 昼間を含めた総来場者 2,695人 ・ビジネスパーソン向け夜の鑑賞プログラム 参加者 44人 ・県美と一緒に〇〇したい！ 参加者 67人 <p>(2) 施策成果</p> <p>当館が開館40周年を迎えることを記念して、朝から夜までアートやモノづくりの楽しさを五感で体験できるプログラムを多数用意した「美術館で夏祭り！」を開催し、普段、美術館にあまり馴染みのない方々にも、来館いただくきっかけをつくることができた。また、大学連携による共同研究では、整備にかかる技術的要件や公園と一体となった魅力向上策等に関する分析および検証を実施し、それらの結果等も踏まえ、美術館整備基本計画骨子をとりまとめた。加えて、子育て・福祉などに携わられている方、学生、アートイベント実施団体および一般公募に応募いただいた皆さんとともに美術館の未来の姿を考えるワークショップ「県美と一緒に〇〇したい！」を開催し、美術館整備基本計画の策定に向けた検討等に役立てることができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>「美術館魅力向上ビジョン」の実現に向けて、びわこ文化公園や近隣地域と一体となった魅力や利便性向上、賑わいの創出、施設整備の検討が必要である。また、令和7年度に策定を予定している美術館整備基本計画について、詳細の検討を進めていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>公園・地域と一体となったエリアの魅力向上を図るため、看板の更新および設置や野外彫刻作品の設置検討、昨年度に引き続き夏祭りを含むナイトミュージアムを実施するとともに、美術館整備に関する詳細の調査および分析ならびに意見聴取等を進め、美術館整備基本計画を策定する。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>美術館魅力向上ビジョンおよび美術館整備基本計画に基づき、美術館の魅力・機能の向上に向けた取り組みを継続的に進めていく。</p> <p style="text-align: right;">（文化芸術振興課）</p>

事 項 名	成 果 の 説 明																																								
<p>7 希望が丘文化公園の管理運営（指定管理）</p> <p>予 算 額 357,366,000 円</p> <p>決 算 額 356,497,000 円</p>	<p>1 希望が丘文化公園の管理運営（指定管理）</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>青少年育成事業等 59事業、参加者総数 98,705人</p> <p>3つのゾーン（青少年宿泊研修所、野外活動施設、スポーツ施設）のそれぞれの特色を生かした事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然体験 自然観察会、夏休み自然塾など ・ふれあい交流イベント 新緑祭、秋まつりなど ・野外活動・宿泊体験 アウトドアキッズキャンプ、ファミリーキャンプフェスタなど ・スポーツ振興 スポーツフェスティバル、ディスクゴルフ大会など <p>施設の運営管理 来園者総数 906,840人</p> <p>施設の利用状況</p> <table border="1" data-bbox="728 662 1668 805"> <tr> <td>・青少年宿泊研修所（青年の城）</td> <td>利用件数</td> <td>392件</td> <td>利用者数</td> <td>34,458人</td> </tr> <tr> <td>・野外活動施設</td> <td>利用件数</td> <td>313件</td> <td>利用者数</td> <td>12,796人</td> </tr> <tr> <td>・スポーツ施設</td> <td>利用件数</td> <td>2,868件</td> <td>利用者数</td> <td>160,830人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>利用件数</td> <td>3,573件</td> <td>利用者数</td> <td>208,084人</td> </tr> </table> <p>(2) 施策成果</p> <p>豊かな自然環境を生かした憩いの公園として、安心安全、快適な施設提供に努めるとともに、県民文化の向上、健康づくりや体力の向上、青少年の健全育成のための各種事業を実施した結果、多くの来園者があり、県民に親しまれる公園としての役割を果たした。</p> <p>また、地元関係機関や団体等との連携・協働を深める取組を重視しつつ、魅力的な公園づくりに努めたほか、3月から9月の休園日（月曜日）の開園や、夏期における利用時間の延長を行うなど、利用者サービスの向上に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="694 1053 1456 1197"> <tr> <td>来園者総数</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> <td>令6</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>656,403</td> <td>857,965</td> <td>842,847</td> <td>906,840</td> </tr> <tr> <td>施設利用者数</td> <td>令3</td> <td>令4</td> <td>令5</td> <td>令6</td> </tr> <tr> <td>（単位：人）</td> <td>121,755</td> <td>197,440</td> <td>204,988</td> <td>208,084</td> </tr> </table> <p>(3) 今後の課題</p> <p>公園の特徴を生かした事業展開や情報発信の工夫、安心・快適に利用できる施設の管理などに努め、利用者満足度の向上と利用者の拡大につなげる必要がある。</p>	・青少年宿泊研修所（青年の城）	利用件数	392件	利用者数	34,458人	・野外活動施設	利用件数	313件	利用者数	12,796人	・スポーツ施設	利用件数	2,868件	利用者数	160,830人	計	利用件数	3,573件	利用者数	208,084人	来園者総数	令3	令4	令5	令6	（単位：人）	656,403	857,965	842,847	906,840	施設利用者数	令3	令4	令5	令6	（単位：人）	121,755	197,440	204,988	208,084
・青少年宿泊研修所（青年の城）	利用件数	392件	利用者数	34,458人																																					
・野外活動施設	利用件数	313件	利用者数	12,796人																																					
・スポーツ施設	利用件数	2,868件	利用者数	160,830人																																					
計	利用件数	3,573件	利用者数	208,084人																																					
来園者総数	令3	令4	令5	令6																																					
（単位：人）	656,403	857,965	842,847	906,840																																					
施設利用者数	令3	令4	令5	令6																																					
（単位：人）	121,755	197,440	204,988	208,084																																					

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>8 希望が丘文化公園活性化の推進</p> <p>予 算 額 18,713,000 円</p> <p>決 算 額 18,710,439 円</p>	<p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 利用者に安全・快適に利用していただけるよう施設の維持管理や公園運営に努める。</p> <p>イ 次年度以降の対応 開園後53年を経て施設の老朽化が進んでおり、より一層の来園者の安全・快適な利用のため、施設・設備の点検や修繕に努める。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p> <p>1 希望が丘文化公園活性化の検討</p> <p>(1) 事業実績 民間企業へのサウンディング調査結果等を踏まえ、公園の活性化方針を策定するとともに、活性化方針に基づく事業の実施手法について、PPP/PFI手法導入可能性調査を実施した。</p> <p>(2) 施策成果 希望が丘文化公園活性化方針策定支援業務委託において、民間企業への公募型サウンディング調査を実施するとともに、調査結果等に基づき、令和6年8月に公園活性化方針を策定した。 希望が丘文化公園活性化事業にかかるPPP/PFI手法導入可能性調査業務委託において、先行事例の調査や民間企業へのヒアリング調査を実施するとともに、調査結果等に基づき、事業手法についてPFI(BTO)方式を選択することが最も適切であると評価した。</p> <p>(3) 今後の課題 公園活性化方針に基づく活性化事業について、令和8年度の入札公告に向けた実施方針および要求水準書等の内容の検討を進める必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 公園活性化事業の入札公告に向けて、実施方針および要求水準書(案)を作成し、公表する。</p> <p>イ 次年度以降の対応 令和8年度に公園活性化事業の入札公告を実施し、落札者の決定を行う。令和9年度に落札者と事業契約を締結し、施設の設計や建設を進める。</p> <p style="text-align: right;">(文化芸術振興課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>9 文化財の保存と継承</p> <p>予 算 額 2,180,721,000円</p> <p>決 算 額 1,986,238,726円</p> <p>(翌年度繰越額 192,023,000円)</p>	<p>1 指定文化財の保護 1,181,906,691円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>ア 県指定文化財の新指定 7件 (有形文化財 7件)</p> <p>イ 国指定文化財保存修理等補助 39件 (うち前年度繰越 3件)</p> <p>ウ 県指定文化財保存修理等補助 6件 (うち前年度繰越 1件)</p> <p>エ 埋蔵文化財発掘調査等補助 15市町</p> <p>オ 滋賀県文化財保存基金の原資積立</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>県指定文化財の新指定や滋賀県文化財保存基金を活用して文化財の保存修理等に対して支援を行うことにより、次の世代へ引き継ぐべき国民的財産である文化財の保存を図ることができた。</p> <p>また、計画的かつ適切な時期に保存修理を実施するために、滋賀県文化財保存基金に原資の積立を行うことができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>本県には、国指定等文化財が 1,458件、県指定文化財が 533件あり、重要文化財の指定件数は全国第4位 (令和6年度末時点) である。これら数多くの優れた文化財を次の世代に良好に引き継いでいくため、国、市町、所有者等と連携し、計画的な保存・修理に努めていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>(ア) 県指定文化財の新指定のための調査および審議会の開催</p> <p>(イ) 国指定文化財保存修理等補助予定件数 39件 (うち前年度繰越 4件)</p> <p>(ウ) 県指定文化財保存修理等補助予定件数 11件</p> <p>(エ) 埋蔵文化財発掘調査等補助予定件数 15件</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>引き続き滋賀県文化財保存基金を活用して計画的に保存修理等のための支援を進める。</p> <p>2 発掘調査の実施 3,430,916円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>公共事業等に伴う試掘・確認調査の実施 16件</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>埋蔵文化財の試掘・確認調査を計画的に行うことで、埋蔵文化財の保存と公共事業の円滑な推進を図ることができた。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(3) 今後の課題 調査を円滑に進めるためには開発部局等と連絡を密にし、引き続き周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等についての情報を早期に把握する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 試掘・確認調査予定件数 7件 イ 次年度以降の対応 開発事業計画を早期に把握し、発掘調査の円滑な実施を図る。</p> <p>3 史跡の保存整備等の実施 153,532,119円</p> <p>(1) 事業実績 ア 史跡公有化 公有化実施史跡：近江国府跡（国庁跡） 1,907.41㎡ イ 県有史跡地の維持管理</p> <p>(2) 施策成果 緊急性の高い土地の公有化や県有史跡地の維持管理等を行うことで、地域の歴史にとって重要な価値を持つ史跡を適切に保存することができた。</p> <p>(3) 今後の課題 今後も緊急性の高い土地の公有化を図りつつ、地域の歴史にとって重要な価値を持つ史跡を適切に保存する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 緊急性の高い史跡地の公有化（史跡近江大津宮錦織遺跡）を進めるとともに、継続して県有史跡地の適切な維持管理を行う。 イ 次年度以降の対応 所有者の要望等を考慮し計画的に史跡地の公有化を進める。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明															
	<p>4 文化財保存修理受託事業の実施 647,369,000円</p> <p>(1) 事業実績 文化財保存修理受託事業費 受託箇所数 3箇所</p> <p>(2) 施策成果 国指定文化財建造物について、所有者から委託を受けて保存修理工事を行うことで、破損の著しい建造物を計画的に修理することができた。</p> <p>(3) 今後の課題 ア 文化財建造物の価値を維持していくため、適切な周期で保存修理を行う必要がある。 イ 計画的かつ継続的に保存修理を実施していくため、文化財建造物修理技術者の確保・育成を図る必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 所有者が希望する保存修理の規模により、受託できる件数に限りがあるため、外部機関との執行調整を行うことで保存修理を計画的に実施する。 また、技術者養成研修の受講や保存修理現場において経験を積むことで、若手技師の育成を図る。 国指定建造物保存修理事業の予定箇所数 2箇所 イ 次年度以降の対応 市町ヒアリングにより所有者の要望を確認・調整しながら長期的な見通しのもと、保存修理を実施していく。 (文化財保護課)</p>															
<p>10 文化財の魅力の発信</p> <p>予 算 額 1,129,654,000円</p> <p>決 算 額 1,126,203,366円</p>	<p>1 「近江の城」魅力発信事業 10,714,091円</p> <p>(1) 事業実績 近江の城の魅力を全国に向けて広く発信し、滋賀への来訪者の拡大を図ることを目的に、首都圏等での情報発信事業と県内での探訪交流事業等を実施した。</p> <p>ア 首都圏等での取組</p> <table data-bbox="705 1165 1344 1340"> <tr> <td>(ア) 東京講座</td> <td>1回</td> <td>134人</td> </tr> <tr> <td>(イ) 東京シンポジウム</td> <td>1回</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>(ウ) お城E X P Oへの出展</td> <td>2日</td> <td>20,754人</td> </tr> <tr> <td>(エ) 越前若狭お城フェスへの出展</td> <td>2日</td> <td>3,800人</td> </tr> <tr> <td>(オ) 大阪お城フェスへの出展</td> <td>3日</td> <td>7,371人</td> </tr> </table>	(ア) 東京講座	1回	134人	(イ) 東京シンポジウム	1回	66人	(ウ) お城E X P Oへの出展	2日	20,754人	(エ) 越前若狭お城フェスへの出展	2日	3,800人	(オ) 大阪お城フェスへの出展	3日	7,371人
(ア) 東京講座	1回	134人														
(イ) 東京シンポジウム	1回	66人														
(ウ) お城E X P Oへの出展	2日	20,754人														
(エ) 越前若狭お城フェスへの出展	2日	3,800人														
(オ) 大阪お城フェスへの出展	3日	7,371人														

事 項 名	成 果 の 説 明															
	<p>イ 県内での取組</p> <p>(7) 出張！お城E X P O i n 滋賀・びわ湖 1日 2,100人</p> <p>(4) 県内文化財探訪・講座 4回 146人</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>首都圏など県外での取組においては、シンポジウムや講座の実施、「お城E X P O」のような大規模なイベントへの参加により、より幅広く滋賀県の城郭の魅力を発信することができた。また、県内での取組においては、「出張！お城E X P O i n 滋賀・びわ湖」や文化財探訪・講座に多くの方に参加いただき、本県の文化財の魅力を発信することができた。</p> <p>令和8年度（2026年度）の目標とする指標</p> <table border="1" data-bbox="703 663 2063 762"> <thead> <tr> <th>「近江の城1300」関連事業数および総参加者数</th> <th>令5</th> <th>令6</th> <th>令7</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>18回／2,900人</td> <td>19回／3,000人</td> <td>20回／3,100人</td> <td>21回／3,200人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>17回／3,559人</td> <td>18回／3,306人</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 今後の課題</p> <p>本県は豊かな歴史に育まれた豊富な文化財を有しているが、その存在や価値がまだ十分に知られていないため、引き続き県内外において、より効果的な魅力発信を行っていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>「出張！お城E X P O i n 滋賀・びわ湖」は、県内外からより多くの方に来場いただけるよう、令和7年11月にキックオフをする「安土城築城450年祭」に併せて安土で開催する。また、安土城考古博物館や近江八幡市等とも連携して広く情報発信を行う。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>県の豊富な文化財の存在や価値を十分に周知していくためには継続的な取組が必要であり、今後も県内外の様々な場面において文化財を活用し、観光部局とも連携を図りながら魅力の発信を行う。</p>	「近江の城1300」関連事業数および総参加者数	令5	令6	令7	目標値	目標	18回／2,900人	19回／3,000人	20回／3,100人	21回／3,200人	実績	17回／3,559人	18回／3,306人	—	—
「近江の城1300」関連事業数および総参加者数	令5	令6	令7	目標値												
目標	18回／2,900人	19回／3,000人	20回／3,100人	21回／3,200人												
実績	17回／3,559人	18回／3,306人	—	—												

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 彦根城世界遺産登録推進事業 16,000,000円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>昨年度に引き続き、事前評価申請書についてイコモスとの対話を実施し、事前評価結果の通知（令和6年10月）以降、国・県・市で連携し推薦書案の作成に取り組んだ（提出は令和7年7月）。併せて、機運醸成のための取組を実施した。</p> <p>ア 事前評価結果を受けて、推薦書案の作成を開始</p> <p>イ 機運醸成に向けた県民イベント（キャラバン隊）を実施 7回 990人</p> <p>ウ 県内外のイベント等へブース出展を実施 18回</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>事前評価結果で世界遺産の評価基準を満たす可能性があることとされたこと、およびこの結果を反映した推薦書案の作成を開始したことなど、世界遺産登録に向けた段階を着実に進めることができた。併せて、多人数が集まる場所における情報発信の強化により、機運醸成を図ることができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>彦根城の世界遺産登録に向けては、イコモスの現地調査等、必要な段階を着実にクリアしていく必要がある。早期の登録の実現に向け、国や彦根市と連携のうえ取組を着実に進めていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>7月に文化庁に推薦書案を提出した。国の文化審議会で審議された結果として、「説明の充実に向けて引き続き取組が必要である。」とされた。世界遺産登録実現に着実に近づいており、引き続き推薦書本体の作成・説明内容の充実注力するとともに、国内推薦を見据えた機運醸成の取組を行う。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>文化審議会から示された課題に対応した推薦書案を作成するとともに、令和9年夏頃に実施予定のイコモス現地調査に向け、国や彦根市と連携して入念な準備を行うとともに、引き続き機運醸成の取組を行う。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>3 「幻の安土城」復元プロジェクト事業 639,981,339円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>安土城の実像を明らかにし、見える化を図ることで安土城への注目を集めることを目的に「安土城の実像解明と保全」「デジタル技術を活用した安土城の見える化」「機運醸成」を3つの柱として事業を実施した。</p> <p>ア 安土城の実像解明と保全 「特別史跡安土城跡整備基本計画」に基づく令和の調査・整備事業の実施</p> <p>イ デジタル技術を活用した安土城の見える化</p> <p>(ア) デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化アプリの制作（令和6年度～令和7年度）</p> <p>(イ) 滋賀県立安土城考古博物館第1期展示改修の実施（令和5年度～令和6年度）</p> <p>ウ 機運醸成の取組</p> <p>(ア) 歴史セミナーの実施 4回 299人</p> <p>(イ) 発掘現場の一般公開 1日 169人</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>全国的にも高い知名度を誇る戦国の城であるが、その実像については謎に包まれている部分が多いため、安土城の復元プロジェクトを行うことにより、安土城や滋賀の歴史等に対して多くの注目を集めることができた。</p> <p>令和5年度に20年間かけて実施を予定する令和の調査・整備事業として、天主台周辺の発掘調査に着手し、令和6年度においても引き続き、天主台石垣の崩壊状況や天主台直下の建物の概ねの規模等を確認した。また、安土城の見える化に向け、多様な情報を提供するデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化アプリを制作するとともに、安土城考古博物館の第1期展示改修事業を実施し、令和7年3月18日にリニューアルオープンした。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>特別史跡安土城跡整備基本計画に基づき令和の調査・整備事業を着実に実施するとともに、安土城考古博物館のリニューアル後の展示や、令和7年度に完成する予定の「幻の安土城」見える化アプリを活用して、さらなる機運醸成に取り組む必要がある。</p> <p>また、新しい調査成果を見える化のツールに反映し、情報を発信していく必要がある。なお、安土城考古博物館の展示改修については、基本計画に基づき第2期展示改修工事の実施について検討していく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>整備基本計画に基づき、引き続き整備調査を着実に実施するとともに、その成果について情報発信を行う。</p> <p>「幻の安土城」見える化アプリを完成させ、10月に公開、11月にキックオフをする「安土城築城450年祭」においてアプリを活用したイベントを開催し、広く周知を図り今後の活用につなげる。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>イ 次年度以降の対応 安土城考古博物館のデジタル映像を活用した新しい展示と「幻の安土城」見える化アプリを連携させた見学の方法を、広く一般向けに発信するなどして、より多くの方々に安土城について正しく知っていただけるようにする。安土城の魅力や価値を十分に周知していくためには継続的な取組が必要であり、今後も様々な場面で見える化のツールや調査成果を活用し、その魅力の発信を行う。</p> <p>4 琵琶湖の水中遺跡魅力発掘・発信事業 340,590円</p> <p>(1) 事業実績 琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想検討会議を3回開催した。 また、琵琶湖に眠る水中遺跡魅力発掘・発信事業「琵琶湖の水中遺跡発見100年記念講演会・展示会」を開催し、滋賀県ならではの水中遺跡の魅力や価値を発信した。</p> <p>ア 講演会 1回 130名 イ 展示会 9日 1,339名</p> <p>(2) 施策成果 琵琶湖に眠る水中遺跡の調査・保存や、水中遺跡や出土品の活用の推進に向け、有識者から重要な意見を聴取することができた。 また、講演会や展示会の開催により、琵琶湖の水中遺跡の重要性や貴重性を多くの方に伝えることができた。</p> <p>(3) 今後の課題 水中遺跡の実態を解明するための調査方法や、魅力を発信するための公開活用、水中遺跡に関わる人材の育成などの具体的な方向性ととも、中長期的な事業計画についても検討する必要がある。 また、水中遺跡は普段は琵琶湖に沈んでいるため、他の遺跡と比べて県民の興味関心が低いことから、引き続き講演会や展示会等を実施することにより、滋賀県ならではの水中遺跡の価値と魅力を広く発信・共有していく。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 引き続き検討会議を実施し、有識者からの意見・助言を得て、琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想を策定するとともに、令和7年度は高島市内で講演会や展示会を開催し、琵琶湖の水中遺跡の価値と魅力を発信する。</p> <p>イ 次年度以降の対応 琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想に基づき、文化庁や県内市町や関係機関等と連携・協力しながら、水中遺跡の調査や、水中遺跡の史跡指定に向けた取組、水中遺跡と出土文化財の公開活用、人材育成などに取り組む。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>5 安土城考古博物館の管理運営 144,382,796円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>ア 展示事業 常設展、特別展（1回）、特別陳列、ロビー展示、回廊展示、屋外展示</p> <p>イ 来館者数 20,611人</p> <p>ウ 普及啓発事業 講演・講座等（城郭探訪含む） 17回 510人 体験学習・ワークショップ 2回 64人 博学連携事業（生徒・引率者数） 21校 821人</p> <p>エ 設備改修等 第1期展示改修工事、浄化槽の攪拌ブロワーの更新等を実施した。</p> <p>(2) 施策成果 第1期展示改修工事により、第1常設展示室に安土城天主をイメージした八角形のシアターを設置し、5面スクリーンに高精細CGにより復元した安土城を上映する映像空間に生まれ変わった。映像の中では、信長自らが築城の意義を語るにより、より幅広い世代の県民に安土城の魅力と価値を伝えることができる展示になった。</p> <p>(3) 今後の課題 より多くの県民や県外の方にも安土城に親しんでもらえるよう、来館者を増やすために広報等に力を入れていく必要がある。また、展示基本計画に基づく第2常設展示室等に係る第2期工事を実施する必要があることに加え、施設の老朽化に伴う設備改修が必要となっている。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 令和7年秋にキックオフをする「安土城築城450年祭」に合わせて、来館者増を図る。また、長期保全計画に基づき計画的に設備更新を進めていくとともに、必要な設備改修等を行う。</p> <p>イ 次年度以降の対応 「安土城築城450年祭」や令和9年度のdestinationキャンペーンの機会を活かして「安土城・信長・戦国」の魅力により一層発信できるよう、観光部局や地域と連携した取組を検討する。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>6 琵琶湖文化館の管理運営 281,829,881円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>ア 展示事業（休館中のため他の博物館等で開催） 琵琶湖文化館地域連携企画展の開催 3回 ・滋賀県立安土城考古博物館 5,262人 ・滋賀県公文書館 591人 ・観峰館 1,276人</p> <p>イ 普及啓発事業 講座「滋賀の文化財講座 花湖さんの打出のコヅチ」7回 701人</p> <p>ウ 新しい琵琶湖文化館の整備 新しい琵琶湖文化館の整備に向けて、実施設計を策定し、令和7年3月に建設工事に着工した。</p> <p>(2) 施策成果 琵琶湖文化館は、平成20年度から休館となっているが、他館と連携した展覧会の開催や積極的な収蔵品の貸出、様々なジャンルの文化財をテーマとした講演会の開催、ホームページでの情報発信などを実施することにより、多くの方が文化財の魅力に触れる機会を提供することができた。また、新しい琵琶湖文化館については、事業計画どおり着実に整備を推進することができた。</p> <p>(3) 今後の課題 新しい琵琶湖文化館が整備されるまでの間、適正な収蔵環境を整備するとともに、収蔵品の活用を継続して実施する必要がある。また、新しい琵琶湖文化館の着実な整備を進める必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 引き続き他館と連携した展覧会の開催や積極的な収蔵品の貸出、様々な文化財をテーマとした講演会などを開催する。 新しい琵琶湖文化館の整備においては、引き続きPFI事業者と連携し、建築工事を着実に進めるとともに、ホームページでの情報発信など、広報活動を充実させる。</p> <p>イ 次年度以降の対応 令和9年3月の竣工に向け、引き続き着実に工事を進めるとともに、令和9年12月の開館に向け、収蔵品の移設や開館記念展示の準備を本格化させる。また、新たにサポートセンターやビジターセンター機能を備えるための準備についても、PFI事業者や市町、県内博物館、観光関連団体等と連携して取り組んでいく。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>7 埋蔵文化財センターの管理運営 32,954,669円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>ア 埋蔵文化財に関する資料の収集、整理、保管および普及・啓発活動の実施</p> <p>(ア) 出土遺物・記録資料のデータ整理や貸出等の対応</p> <p>(イ) ロビー展示や大津京駅構内での展示を実施</p> <p>(ウ) 学校教育機関への出前事業等の実施</p> <p>イ 埋蔵文化財センターの機能強化に向けた検討</p> <p>埋蔵文化財センターあり方検討会議を3回開催し、有識者から意見を聴取した。</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>展示会や出前講座、体験学習などを通じて、幅広い年齢層の方に埋蔵文化財への理解を深めていただいた。 有識者から意見を聴取し、今後の埋蔵文化財センターのあり方についてまとめることができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>県内には多数の埋蔵文化財が存在するが、それらの多くが土中にあるため、講演会や展示などを開催し、発掘調査によって明らかになった遺構や出土遺物などについて、広く県民に知っていただく必要がある。 滋賀県の埋蔵文化財行政の拠点となる埋蔵文化財センターの機能強化について整理する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>引き続き、展示や講演会、出前事業などを開催し、本県の埋蔵文化財について学ぶ機会を提供する。 滋賀県埋蔵文化財センターに必要となる施設整備や機能について具体的に検討・整理し、今後の基本的な方針を検討する。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>出土遺物や記録資料の適正な管理や公開活用を進め、広く県民の埋蔵文化財への関心を高め、理解を深めていただける機会の提供を継続する。 今後の滋賀県埋蔵文化財センターに係る基本方針に基づき、施設整備や機能の充実等について、さらに検討を進める。</p> <p style="text-align: right;">(文化財保護課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 しがスポーツの魅力の総合発信 7,919,940円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>ア 「しがスポーツ大使」と県民との交流推進事業 実施件数 54件 参加人数 7,702人 「しがスポーツ大使」55者（個人46人と団体9者）</p> <p>イ 運動遊び指導者派遣「しがスポーツの子」事業25回 参加園児数 1,320人</p> <p>ウ スポーツ情報発信サイト「しがスポーツナビ！」運營業務委託 アクセス件数 158,012件</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>ア 「しがスポーツ大使」と県民との幅広い交流を推進することにより、スポーツそのものの魅力を発信するだけでなく、自己啓発や人権問題など、様々な分野でスポーツを通じてしがスポーツの魅力を発信できた。</p> <p>イ 県内のこども園等に運動遊び指導者を派遣し、運動遊びプログラム「Pic」を活用した運動遊びを実施することにより、「Pic」の普及ならびに子どもが運動遊びに取り組むきっかけとすることができた。</p> <p>ウ 県内のスポーツに関する情報を総合的に発信するポータルサイト「しがスポーツナビ！」を運営し、県内のスポーツ施設の紹介動画やスポーツイベントのレポート、パリオリンピック・パラリンピックの特設ページを開設し滋賀県ゆかりの出場選手の情報を掲載したほか、施設情報を刷新して利便性を高めた。イベント情報の発信も強化することで、県民のスポーツを「する」「みる」「支える」活動を支援し、スポーツ振興を図ることができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>ア スポーツの魅力発信を充実させるため、「しがスポーツ大使」との交流を通じて、より多くの県民に運動・スポーツに興味関心を持っていただけるよう、引き続き交流事例の発信や関連団体等を通じた事業周知を行う必要がある。</p> <p>イ 「しがスポーツの子」事業については、遊びを通じて発達段階に応じた動きを身に付けるために専門の指導者による運動遊びプログラム「Pic」を活用した運動遊びの充実を図り、県内の幼稚園、保育園、認定こども園等において、「Pic」を定着させていく必要がある。</p> <p>ウ 「しがスポーツナビ！」について、より一層魅力あるサイトにしていくため、国スポ・障スポなど話題性の高い情報や、様々な本県スポーツイベント等の情報の発信、SNSも活用してタイムリーな話題をこまめに更新していく必要がある。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>(ア) 開催を控えた国スポ・障スポに向け、県内のスポーツを盛り上げるために、「しがスポーツ大使交流推進事業」の積極的な活用を推進する。小中高校および特別支援学校の校長会や福祉サービス事業所の連携会議等で宣伝を行ったり、小中学校やスポーツクラブ等に大使派遣のニーズを伺い、大使とのマッチングをしたりと、例年以上に積極的に事業を展開する。</p> <p>(イ) 「しがスポーツの子」事業では、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携を図りながら地域のクラブからスタッフ等を派遣し、運動遊びの機会創出を促進する。</p> <p>(ウ) 「しがスポーツナビ！」の魅力を高めるため、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の情報発信をする特設ページを新たに開設する。また、滋賀県ゆかりのアスリートの紹介やスポーツの魅力発信に関するコンテンツの制作を継続するとともに、SNSでの情報発信も強化し、各スポーツ事業の機運醸成を図る。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>引き続き滋賀県ゆかりのアスリートやチームの活躍、スポーツイベント等の情報発信を「しがスポーツナビ！」を活用し実施するとともに、障害者スポーツについての情報発信も継続していく。</p> <p>3 プロスポーツを活用した県民のスポーツ推進 16,581,535円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>県内プロスポーツ等3チーム（滋賀レイクス、東レアローズ、レイラック滋賀FC）の試合会場において、横断幕等の掲示や電光掲示板による広告掲出、冠ゲームの開催により国スポ・障スポ大会等のスポーツ大会の周知と機運醸成を図るとともに、びわ湖マラソン等の大規模大会のPR、運動習慣化の啓発を行った。また、小中学生を対象にプロスポーツ等の選手より直接教えていただく「しがプロスポーツフェス」を開催した。</p> <p>試合観戦者数 約20万人</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>プロスポーツ等の持つ集客力や発信力等を活用し、試合会場における県内で開催される国スポ・障スポ等の大規模スポーツ大会のPRを実施することができた。また、運動・スポーツの習慣化や障害者スポーツの普及に向けた啓発により県民の運動・スポーツのきっかけをつくることができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>県内のプロスポーツ等の試合会場でPRや啓発を実施するほか、プロスポーツを更に活用し、地域の活性化を図っていく必要がある。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 プロスポーツの試合にはホームとアウェーの特性がある。この特性を活かし、他府県の行政やチームと連携し、他府県の観客を惹きつける魅力的な事業を展開することで、本県への誘客を促進し、地域活性化を図る。ホームゲーム会場やSNS等において引き続きスポーツ関連事業のPRを行い、国スポ・障スポ等の大規模スポーツ大会の機運醸成および運動・スポーツ習慣化の啓発等に取り組む。</p> <p>イ 次年度以降の対応 引き続き、子どもたちを中心にプロスポーツに触れ合う機会をつくとともに、各チームの発信力や集客力を活用して県民のスポーツ推進につながる取組を進める。</p> <p>4 障害者スポーツの振興 75,298,484円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>ア 滋賀県障害者スポーツ大会（選考会の部、スポーツフェスタの部、スペシャルスポーツの広場）開催 選考会の部：開催日 9月7日, 9月14日, 9月29日, 10月5日, 10月12日, 11月16日 参加者数 684人 スポーツフェスタの部：開催日 6月15日, 7月6日, 7月27日, 8月3日, 11月26日 参加者数 369人 スペシャルスポーツの広場：延べ12回実施（高島市、東近江市、長浜市、栗東市、彦根市、大津市） 参加者数 1,000人</p> <p>イ 全国障害者スポーツ大会選手派遣（佐賀県） 本大会 10月26日～10月28日（派遣選手数 個人競技41人 団体競技12人） 成績 個人競技 金19個、銀16個、銅12個</p> <p>ウ 滋賀県障害者スポーツ協会運営費の補助 専門委員会 3回、強化委員会 2回</p> <p>エ 障害者スポーツ推進事業・障害者スポーツ共生社会プロジェクト 障害者スポーツ教室等開催 17団体 参加者数 延べ4,997人 関係団体へのコーディネーター訪問支援 37回（WEB訪問等を含む） 障害者スポーツ理解促進事業 研修会 4回（参加者数 延べ67人）、体験会 5回（参加者数 延べ567人）</p> <p>オ 障害者スポーツ普及啓発事業 「わたSHIGA輝く障スポ」プロモーション映像およびリーフレット制作業務 プロモーション動画 リーフレット制作、配布 ポスティング：大津市 4,975部、近江八幡市 880部、草津市 1,145部 新聞折り込み：県内全域 127,000部</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(2) 施策成果</p> <p>ア スペシャルスポーツの広場、スポーツフェスタ、県大会と段階に応じた滋賀県障害者スポーツ大会を県内各地で開催し、障害のある人の社会参加の場としての役割を果たせた。</p> <p>イ 総合型地域スポーツクラブ14団体と市町障害者スポーツ協会等3団体が障害者スポーツに取り組み、各地域で障害者スポーツ教室等を開催し、障害者に対して継続的に運動・スポーツの機会を提供することができた。障害者スポーツ理解促進事業では、障害者スポーツに関する研修会や体験会を実施し、障害者スポーツを知っていただく機会を提供することで理解促進を図ることができた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>ア 滋賀県障害者スポーツ協会をはじめ、福祉・教育・スポーツ分野の関係者や団体と連携し、障害者スポーツの振興を図るとともに、障害のある人がスポーツをするきっかけづくりに取り組む必要がある。</p> <p>イ 総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツ団体等における障害者スポーツの実践を広めるため、障害者スポーツを実施している団体のノウハウ等の共有を図るとともに、新規に取り組む団体を掘り起こすなどスポーツを継続していくことができる環境をさらに整える必要がある。</p> <p>ウ 今年度、本県で開催する「わたSHIGA輝く障スポ」に過去最多となる約300名の選手が出場することから、各選手が最大のパフォーマンスを発揮できるよう支援していく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>(ア) 障害のある方が気軽に大会に参加できる「スポーツフェスタの部」および身近な地域でスポーツを楽しむことができる「スペシャルスポーツの広場」に一層、新たな参加者（特に若年層）を増やせるよう、関係機関に周知していく。また、教育委員会と連携し特別支援学校等の生徒が県大会等へ参加しやすい環境づくりを進める。</p> <p>(イ) 総合型地域スポーツクラブでの障害者スポーツの取組を広めるため、既に取り組を実施しているクラブの情報やノウハウ等の共有を進めるとともに、障害者スポーツに関する知見を有する大学と連携し、障害者スポーツの実施環境の整備等、諸課題への対応方策を検討する。</p> <p>(ウ) 障スポ大会に出場する選手を支えるため、県職員を含め約150名の役員を選手団に配置することで、選手が安心して大会に臨める環境を整える。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>イ 次年度以降の対応</p> <p>(7) 障害者スポーツの理解をより多くの県民に広げるとともに、スポーツをする障害のある人が増えるよう、様々な機会を通じてスポーツをすることの大切さや魅力を発信する等、幅広い広報活動に努める。</p> <p>(4) 障害のある人のスポーツをする場の少なさや指導者不足など山積みの課題に一つずつ取り組み、障害のある人がスポーツをできる環境を整えていく。</p> <p>(7) 障スポ大会を機に、多くの県民に障害者スポーツを知っていただくことによって、障害者スポーツの機運醸成や共生社会の実現を推進していく。</p> <p>5 スポーツを活用した地域活性化 4,866,000円</p> <p>(1) 事業実績 令和6年8月1日に供用開始したインフロニア草津アクアティクスセンター（草津市立プール）を活用して、地域活性化に資する活動およびトップアスリートの育成を行う団体に対して支援を行った。</p> <p>(2) 施策成果 オリンピック日本代表コーチを指導者として配置し、県内施設を有効活用した取組（飛込教室の開設、体験会の開催等）を実施した団体を支援し、スポーツを通じて地域の活性化につなげることができた。</p> <p>(3) 今後の課題 引き続き、県内施設を有効活用した取組を実施する団体に対して支援を行い、スポーツを通じて地域の活性化を図る必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 補助対象団体が運営するダイビングクラブにオリンピックメダリストが加入するなど、飛込競技への関心は一層高まっている。引き続き、地域活性化に資する活動およびトップアスリートの育成を行う団体を支援し、スポーツを通じて地域の活性化につなげる。</p> <p>イ 次年度以降の対応 事業の継続により、地域活性化に資する活動およびトップアスリートの育成を行う団体を支援し、スポーツを通じて地域の活性化につなげる。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>6 運動部活動の地域移行に向けた環境整備 1,632,406円</p> <p>(1) 事業実績 部活動の地域連携・地域展開の推進にあたり、以下の事業を実施した。</p> <p>ア 大学生コーチの確保・養成（中学校部活動における大学生コーチの活用に向けた検証・実証事業） イ 滋賀スポーツコーチ養成・人材活用構築事業委託（滋賀コーチバンクシステムの運用） ウ 指導者資格取得補助事業等</p> <p>(2) 施策成果 ア 人材確保に関する先進事例や県内大学の知見を得ながら本県の課題や検討事項について把握することができ、次年度の事業の参考となった。 イ 滋賀コーチバンクシステム登録者数 210名 ウ 県内のスポーツ指導者の資格取得を促し、資質向上につなげた（合計71名、スタートコーチ～コーチ3まで）</p> <p>(3) 今後の課題 滋賀県として、地域人材が活躍する「地域連携」を中心に据えた「部活動改革」を進めていくとの考え方を令和7年3月に示したところであり、地域指導者の確保と質の担保、またそれに伴う財源の確保が課題となっている。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 市町教育委員会や学校関係者へのヒアリング（120件を予定）を実施し、課題の分析を進めていくとともに、競技団体等から地域指導者を紹介してもらおう仕組みづくりを進め、地域連携を強化していく。 イ 次年度以降の対応 市町と密な連携をとり、地域連携の課題を地域の実情に応じた形で解決していくとともに、国の動向を注視し地域展開に対応できるための準備を並行して実施する。</p> <p style="text-align: right;">(スポーツ課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>12 スポーツ大会の開催・支援</p> <p>予 算 額 63,014,000 円</p> <p>決 算 額 62,693,000 円</p>	<p>1 びわ湖マラソン大会の開催 50,000,000円</p> <p>(1) 事業実績 「びわ湖毎日マラソン」および「びわ湖レイクサイドマラソン」の伝統を受け継ぐ新たな市民マラソン大会である「びわ湖マラソン」の大会実施に向け、開催市および競技団体、関係団体等と連携しながら準備を進め、第3回大会を開催した。 開催日 3月9日 参加者数 7,190人（エントリー数 8,223人）</p> <p>(2) 施策成果 第3回大会として開催したびわ湖マラソン2025では、47都道府県から7,100名を超えるランナーに参加いただくことができた。 また、多くの企業から協賛をいただくとともに、学校や企業、各種団体から2,100名を超えるボランティア等の協力を得たことで、安全に大会を開催することができた。 加えて、給食やフィニッシュ会場の飲食ブースを中心に滋賀県ならではのおもてなしを提供することで、大会の魅力を高め地域の活性化につながった。</p> <p>(3) 今後の課題 大会開催に必要な協賛金やボランティアの安定的な確保のため、引き続き企業や各種団体等に積極的なアプローチをする必要があるほか、大会の満足度向上のため、沿道応援やおもてなしなどの盛り上げについてさらに検討を進める必要がある。 また、交通規制等による地域への影響を鑑み、自治会や沿道施設に丁寧な周知を行う必要がある。 加えて、大会当日の救護件数を最小限に抑えるために大会当日の救護体制を整えるだけでなく、健康管理に関する事前啓発を進めていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 これまで培ったノウハウを活かして、協賛金の獲得やボランティアの募集を行うとともに、応援に来られる方々の移動手段の確保や、フィニッシュ会場における滋賀県ならではの飲食・物産ブースの充実によって大会の盛り上げを図るなど、競技団体や関係市、庁内各部局等と連携しながら、開催に向けた準備を着実に進める。 イ 次年度以降の対応 継続的な開催に理解を得られるよう、沿道地域の方々に丁寧な説明を行うとともに、出場されたランナーにまた出場したいと思っていただけるよう、これまでの大会の課題や反省点を踏まえ、競技団体や関係市、庁内各部局等と連携しながら、より良い大会に向け必要な見直しを行う。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明																							
	<p>2 スポーツ大会の開催 7,250,000円</p> <p>(1) 事業実績</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">ア 滋賀県民総スポーツの祭典</td> <td style="width: 20%;">開催期間</td> <td style="width: 20%;">4月～3月（競技ごとに随時開催）</td> <td style="width: 10%;">参加者数</td> <td style="width: 10%;">36,581人</td> </tr> <tr> <td>イ 朝日レガッタ</td> <td>開催日</td> <td>5月3日～6日</td> <td>参加者数</td> <td>1,091人</td> </tr> <tr> <td>ウ B I W A K Oクロカン</td> <td>開催日</td> <td>2月9日</td> <td></td> <td>荒天により中止</td> </tr> </table> <p>(2) 施策成果</p> <p>ア 滋賀県民総スポーツの祭典、朝日レガッタ、B I W A K Oクロカンの開催を支援し、スポーツ振興の一翼を担うことができた。</p> <p>イ 本県におけるスポーツボランティア文化の定着を図るための推進組織「しがスポーツボランティア協議会」が中心となり、ボランティアに関する基礎知識や救命講習など多様なジャンルの研修の実施や、魅力的な活動場所の提供といった参加意欲向上につながる方策を展開した結果、令和6年度末時点でスポーツボランティアの登録者数は累計 5,429人となった。（対前年度末 820人増）</p> <p>令和8年度（2026年度）の目標とする指標</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 40%;">スポーツボランティア参加者数</td> <td style="width: 10%;">令6</td> <td style="width: 15%;">目標値</td> <td style="width: 35%;">達成率</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2,259人</td> <td>3,800人以上</td> <td>59.4%</td> </tr> </table> <p>(3) 今後の課題</p> <p>ア 各種スポーツ大会を継続発展させるため、各大会の魅力を発信し、県内外から多く参加をいただく必要がある。</p> <p>イ スポーツボランティアの登録者数は順調に推移しているが、びわ湖マラソンや国スポ・障スポなど大規模なスポーツイベントにおいて登録者がスムーズに活動できるよう、事前に研修やボランティアに参加するなど実践的な経験を積んでいただく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>(ア) 各種スポーツ大会における参加者数の増加を図るため、それぞれの大会の魅力発信や内容の工夫、広報活動の充実を図る。</p> <p>(イ) 大規模スポーツイベント等でボランティアの中心として活躍できる人材の養成に向けて、より多くの登録者が研修や活動へ自主的に参加いただけるよう、魅力ある事業を継続して展開できる枠組みを整備する。</p>	ア 滋賀県民総スポーツの祭典	開催期間	4月～3月（競技ごとに随時開催）	参加者数	36,581人	イ 朝日レガッタ	開催日	5月3日～6日	参加者数	1,091人	ウ B I W A K Oクロカン	開催日	2月9日		荒天により中止	スポーツボランティア参加者数	令6	目標値	達成率		2,259人	3,800人以上	59.4%
ア 滋賀県民総スポーツの祭典	開催期間	4月～3月（競技ごとに随時開催）	参加者数	36,581人																				
イ 朝日レガッタ	開催日	5月3日～6日	参加者数	1,091人																				
ウ B I W A K Oクロカン	開催日	2月9日		荒天により中止																				
スポーツボランティア参加者数	令6	目標値	達成率																					
	2,259人	3,800人以上	59.4%																					

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>イ 次年度以降の対応</p> <p>(7) 各種スポーツ大会における参加者数の増加に向けた取組を引き続き行うとともに、「みる」という視点からも、広報活動の充実に努める。</p> <p>(4) 各種大会の開催にあたり「する」スポーツだけではなく、「支える」スポーツの観点から多くの企業や県民の参画を図り、びわ湖マラソンなどのスポーツイベントにおけるボランティア活動で魅力を感じていただき、本県におけるスポーツボランティア文化の浸透を図る。</p> <p>3 シンボルスportsの創出・定着 5,443,000円</p> <p>(1) 事業実績 わたSHIGA輝く国スポ・障スポの開催競技など、地域に根差したスポーツをシンボルスportsとして普及・振興するために実施する取組に対して支援した。</p> <p>(2) 施策成果 ホッケー日本代表選手合宿を誘致した米原市、東京オリンピックで金メダルを獲得したローイングのニュージーランド代表選手を招いて交流イベントを実施した大津市など8団体を支援し、シンボルスportsの普及・振興につなげることができた。</p> <p>(3) 今後の課題 国スポ・障スポ大会の機運を高め、シンボルスportsとして一つでも多くの競技が根付き、地域の活性化につながるよう、引き続き支援を行う必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 開催年である国スポ・障スポ大会の機運をより一層高め、市町が競技団体と連携して実施する国スポ・障スポ開催競技等の普及・定着に向けた取組に対して支援する。</p> <p>イ 次年度以降の対応 事業の継続により、国スポ・障スポ開催競技等をレガシーとして継承し、シンボルスportsとして普及・定着させ、地域の活性化につなげる。</p> <p style="text-align: right;">(スポーツ課)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>13 国民スポーツ大会に向けた競技力向上対策</p> <p>予 算 額 773,674,000 円</p> <p>決 算 額 763,074,769 円</p>	<p>1 次世代アスリート発掘育成プロジェクト 11,305,569 円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>県内の運動能力に優れた子どもたちを発掘し、身体能力・知的能力の開発や様々な競技体験を通じて、トップアスリートを目指すジュニア選手の育成を行った。</p> <p>ア 次世代アスリートの発掘（滋賀レイキッズ第11期生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選考会の開催 エントリー数 280人 成績上位者 男子20人、女子20人、計40人を選考 <p>イ 滋賀レイキッズ第11期生 認定証交付式、第10期生 修了証授与式</p> <p>ウ 滋賀レイキッズの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育成プログラムの開催 10期生21回、11期生12回 ・競技体験プログラム追加体験会（希望者） 延べ30回 <p>エ プロジェクト実行委員会の開催 3回</p> <p>(2) 施策成果</p> <p>実施した育成プログラムおよび競技体験をきっかけに第10期生については6名が種目転向または併行を決めた。また、佐賀国スポでは、ホッケー、アーチェリーの少年種別優勝等、延べ7種目において修了生が入賞する活躍が見受けられた。</p> <p>(3) 今後の課題</p> <p>引き続き修了生の競技活動状況の把握に努めるとともに、現レイキッズ生に対し、個別に競技接続を進めていく必要がある。また、本事業が本県の競技力向上のレガシーとなるよう、本プロジェクトの質的向上を図り、アスリートの育成プログラムとして定着することを目指してより合理的で効率的な事業運営を検討する必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>令和4年度より開始した、レイキッズ受験者のうち、希望者に競技団体の体験会等の案内を行う「トライキッズ」の取組を充実させるとともに、レイキッズ生の競技接続の機会の拡大を図る。本事業がさらに充実するよう、保護者、子ども、競技団体の理解を得ながら事業を展開し、成果と課題をもって取組を検証する。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>競技団体と連携を密にし、トップアスリートを目指すジュニア選手の発掘・育成・強化を継続的に行うための取組、その他条件整備について検討を進める。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 特殊競技用具の充実 946,000円</p> <p>(1) 事業実績 《ローイング競技》 シングルスカル 1艇 (《馬術競技》 競技馬 1頭 (競技力向上対策事業にて、競技団体へ定額補助)) (《セーリング競技》 セーリングスピリッツ級部品、ウインドサーフィン級部品 (競技力向上対策事業にて、競技団体へ定額補助))</p> <p>(2) 施策成果 競技力向上に必要不可欠な特殊競技用具について、計画的に整備を行った。</p> <p>(3) 今後の課題 特殊競技用具を活用した強化事業を効果的に実施するとともに、今後の整備のあり方について検討を行う必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 計画的に整備を行ってきた特殊競技備品を適切に管理しながら、各競技の強化事業を効果的に実施する。 イ 次年度以降の対応 競技規則の変更や老朽化等により整備が必要な特殊競技用具について、スポーツ振興くじ(toto)助成金等の外部資金も活用しながら必要に応じて整備の検討を行う。</p> <p>3 競技力向上対策本部が行う競技力向上対策事業 750,823,200円</p> <p>(1) 事業実績 滋賀県競技力向上基本計画に基づき、本県の競技力向上と安定した競技力を維持するため、滋賀県スポーツ協会をはじめとする幅広い主体の参画を得て組織する「滋賀県競技力向上対策本部」が行う各種強化事業および対策本部の運営に要する経費を負担・補助した。</p> <p>(2) 施策成果 佐賀国スポにおいての総合順位は8位となり、前年を上回る成績を収めることができたものの、目標としていた3位以内には届かなかった。その一方、スポーツ特別指導員やふるさと選手など新たに本県選手として出場した成年選手や、2025年のターゲットエイジ世代のみならず、延期の影響を受けた2024ターゲットエイジの少年選手の活躍により、全種別において前回大会を大きく上回る競技得点を獲得できたことなど、成果は着実に表れている。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(3) 今後の課題</p> <p>目標である天皇杯獲得に向け、今後、強化指定選手を集中的に強化することで、開催年において確実に入賞・得点できる実力を養うとともに、得点配分の高い団体競技・種目について、成年・少年ともに本大会入賞レベルまで引き上げる対策に力を入れていく必要がある。</p> <p>障害者スポーツについては、開催年において、ひとりでも多くの選手が活躍できるよう、引き続き、育成・強化体制の充実を図る必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応</p> <p>わたSHIGA輝く国スポにおいて天皇杯を獲得するためには、入賞実績のある競技・種目に加え団体競技や少年種別などこれまで得点実績のなかった競技・種目の強化により、予選免除で出場できる開催県のメリットを最大限に活かして、本国スポで入賞できる実力を養う必要がある。2か年一貫計画のもと、残されたわずかな期間を有効に活用し、強化指定選手を集中的に強化するための強化事業や選手が本番で力を出すためのサポート体制の充実を図る。</p> <p>わたSHIGA輝く国スポに向けた、「成年選手確保計画」により獲得した成年選手や県代表基軸チーム、強化指定選手として認定された少年選手が、質・量の伴った強化事業を円滑に実施できるよう、大学、民間企業、学校、県スポーツ協会等、選手の所属先となる各主体との連携をさらに深め、競技力の底上げを図る。</p> <p>また、障害者スポーツについては、出場する全ての選手が自信を持って競技に臨むことができるよう、競技別練習会の充実を図るとともに、大会後の継続を視野に入れた他府県選手との練習試合や大学生等による「練習パートナー」の練習会への参画などの取組を促進する。</p> <p>イ 次年度以降の対応</p> <p>「わたSHIGA輝く国スポにおける男女総合優勝（天皇杯獲得）」「わたSHIGA輝く障スポに向けた障害者スポーツの普及・競技水準の向上」に向けた各種事業の取組を通して得られた成果を全ての県民が持続的に享受するための方針を策定し、レガシー継承のための施策構築を行っていく。</p> <p style="text-align: right;">(国スポ・障スポ大会局)</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>14 第79回国民スポーツ大会および第24回 全国障害者スポーツ大会の開催準備</p> <p>予 算 額 2,249,971,000 円</p> <p>決 算 額 2,224,833,886 円</p>	<p>1 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催準備事業 2,224,833,886円</p> <p>(1) 事業実績</p> <p>県や市町をはじめとする県内の主要な機関・団体によって構成される「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ実行委員会」に対して、運営等に必要な負担金を拠出した。</p> <p>また、大会の円滑な運営や本県におけるスポーツ環境整備に資するため、市町が行う競技施設の整備事業に要する経費や、国スポ競技別リハーサル大会の運営に要する経費に対して補助金を交付した。</p> <p>ア 総会（実行委員会第3回） 事業報告、収支決算報告、事業計画、収支予算等について審議し、決定した。</p> <p>イ 常任委員会（実行委員会第4回、第5回（書面）、第6回） わたSHIGA輝く国スポ入場料金や式典実施要項、荒天時の式典会場等について審議し、決定した。</p> <p>ウ 専門委員会（主な審議内容）</p> <p>(ア) 総務企画専門委員会 国スポ入場料金（案）、国スポデモンストレーションスポーツ競技会場変更（案）、国スポ・障スポ荒天時の式典会場（案）、国スポ競技施設整備計画（第7次）（案）の決定</p> <p>(イ) 広報・県民運動専門委員会 国スポ・障スポメダルデザイン等（案）、国スポ・障スポ記念品の製作（案）、国スポ・障スポおもてなSHIGAエリア売店等設置運営要項（案）、広報・県民運動令和7年度取組計画（案）、国スポメダル授与規定（案）の決定</p> <p>(ウ) 競技運営専門委員会 国スポ正式競技競技会会期変更（案）、国スポ中央競技役員数および同所要経費基準（案）、国スポ競技別リハーサル大会の変更・追加（案）の決定、国スポ競技役員等養成事業の進捗報告</p> <p>(エ) 全国障害者スポーツ大会専門委員会 障スポリハーサル大会実施要綱（案）、障スポ大会役員編成基準（案）、障スポ特別招待者の範囲（案）、障スポ大会実施要綱（案）等の決定</p> <p>(オ) 式典・会場専門委員会 式典実施要項（案）、ウェルカムフェスタ・オープニングプログラム構成（案）、各種式典出演者（案）、おもてなし演技の演技計画案・出演団体（案）等の決定</p> <p>(カ) 宿泊専門委員会 宿泊要項（案）、式典弁当メニューコンテスト実施要項（案）、弁当調製施設募集要項（案）、宿泊事務実施要領（案）等の決定</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>(キ) 医事・衛生専門委員会 医療救護実施計画（案）の決定</p> <p>(ク) 輸送・交通専門委員会 国スポ・障スポ第2次輸送実施計画（案）の決定、佐賀国スポ・全障スポ視察報告</p> <p>エ 特別委員会</p> <p>(7) 募金・協賛推進特別委員会 令和7年度取組計画（案）、募金推進要綱改正（案）の決定</p> <p>オ 競技会運営委員会（県外および県市町共催等により実施の5競技） 各競技会リハーサル大会の実施結果、開催準備状況および今後のスケジュールの報告、馬術競技会リハーサル大会開催方針（案）等の決定</p> <p>カ 市町競技施設整備費補助金 市町が行う国スポ・障スポの競技会場となる競技施設の整備事業に対する支援制度に基づき、14件 691,859,000円を交付した。</p> <p>キ わたSHIGA輝く国スポ競技別リハーサル大会運営費補助金 市町等が開催する競技別リハーサル大会の運営事業に対する支援制度に基づき、15件 414,108,000円を交付した。</p> <p>(2) 施策成果 実行委員会の各専門委員会・特別委員会における所期の活動を行うことができ、先催県と比較しても、概ね計画どおり事業を進めることができている。また、市町と連携したイベント啓発、広報誌の発行やメディアの活用等様々な広報啓発活動を展開した結果、令和5年度調査時と比較して令和6年度は県民の大会認知度が全年齢、男女ともに上昇するなどの成果が出ている。</p> <p>(3) 今後の課題 大会を運営する国スポ・障スポ実施本部の設置や、リハーサル大会で判明した課題を踏まえた各競技会場での競技運営・おもてなしの準備など、大会運営に向けて庁内外と連携して本番に向けた準備を進めていく必要がある。 また、県民の大会認知と参画意識のさらなる向上に向けて、広報啓発活動をより効果的に展開し、機運醸成を促進する必要がある。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
<p>15 スポーツ施設の整備</p> <p>予 算 額 1,351,987,000 円</p> <p>決 算 額 1,319,433,328 円</p>	<p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 競技会の開催準備については、競技別リハーサル大会で判明した課題および必要な対策について、会場地市町および競技団体と共有を図りながら着実に準備を進める。また、各市町に対する競技会運営・施設整備への支援を引き続き行う。</p> <p>広報・県民運動については、テレビや新聞など多様な媒体を活用した広報に加え、街を国スポ・障スポ仕様に装飾するシティドレッシング事業、企業・団体等と連携した広報啓発などにより、大会の開催に向け県民の期待を増し、参画を促進するための効果的な発信を行う。</p> <p>イ 次年度以降の対応 環境配慮や共生社会の実現、おもてなしによる滋賀の魅力発信、子ども・若者・女性の活躍など、これまでの大会開催に向けた取組がレガシーとして大会終了後も継続していくよう、事業を実施する。 (国スポ・障スポ大会局)</p> <p>1 彦根総合スポーツ公園整備事業 69,310円</p> <p>(1) 事業実績 彦根総合スポーツ公園（彦根市松原町地先）において、地元説明会を実施した。</p> <p>(2) 施策成果 陸上競技場におけるイベント開催について地元説明会を実施し、施設利用に関するルールを定めた。</p> <p>(3) 今後の課題 スポーツ施設以外の公園整備について、引き続き彦根市、地元等関係者と連絡調整を行いながら着実な整備を進めるとともに、更なる施設の有効活用を行う必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 国スポ・障スポ大会後の活用に向け、指定管理者や彦根市と協力しながら、着実に公園整備を進める。</p> <p>イ 次年度以降の対応 公園整備を進めるとともに、引き続き公園の有効活用について検討する。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p>2 滋賀アリーナ整備 528,837,318円</p> <p>(1) 事業実績 P F I 方式により整備した滋賀アリーナの建設関係費を支出した。</p> <p>(2) 施策成果 P F I 方式により整備した滋賀アリーナの建設関係費を適切な時期に支出した。</p> <p>(3) 今後の課題 適切な維持管理運営を行うとともに、更なる施設の有効活用を行う必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 P F I 事業者と密に連携し、適切な維持管理運営に努めるとともに、国スポ・障スポに向けた準備を進める。 イ 次年度以降の対応 引き続き施設の有効活用について検討を進める。</p> <p>3 プール整備 425,550,000円</p> <p>(1) 事業実績 「(仮称)草津市立プール整備・運営事業に関する基本協定書」に基づき、草津市が実施したP F I 事業、設計建設モニタリング業務、運営モニタリング業務、土木関連業務に要する経費に対して財政支援を行った。</p> <p>(2) 施策成果 草津市において、県道付替工事や設計建設モニタリング業務、運営モニタリング業務などを着実に進めるとともに、P F I 事業では供用開始に向け建築工事を進めた結果、令和6年8月からの供用開始につながった。</p> <p>(3) 今後の課題 令和6年8月に供用を開始しており、草津市との連携のもと更なる施設の有効活用を行う必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応 ア 令和7年度における対応 P F I 方式による事業等、草津市との連携のもと事業を実施していく。 イ 次年度以降の対応 着実に財政支援を実行していくとともに、引き続き施設の有効活用について検討を進める。</p>

事 項 名	成 果 の 説 明
	<p style="text-align: right;">364,976,700円</p> <p>4 施設整備</p> <p>(1) 事業実績 彦根総合スポーツ公園内野球場において、防球ネットおよび周辺舗装を整備した。</p> <p>(2) 施策成果 公園内における飛球対策として、野球場周辺に防球ネットを設置し、また周辺舗装を整備したことで、より利用しやすい施設環境を整えることができた。</p> <p>(3) 今後の課題 適切な維持管理運営を行うとともに、老朽化に伴う更新を進めていく必要がある。</p> <p>(4) 今後の課題への対応</p> <p>ア 令和7年度における対応 指定管理者と連携し、引き続き適切な維持管理運営に努める。</p> <p>イ 次年度以降の対応 引き続き必要な施設整備を着実にやっていく。</p> <p style="text-align: right;">(スポーツ課)</p>